



令和5年度 第1回接続期教育研修
 「幼保小の架け橋プログラムの目的とその展開」
 ～育ちや学びをつなぐ「架け橋のカリキュラム」作成を目指して～
 日時：令和5年6月2日（金）15：00～17：00
 会場：西新井文化ホール
 講師：大阪総合保育大学 特任教授
 國學院大學 名誉教授 神長 美津子 氏

架け橋プログラムのねらい

地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携してカリキュラム・教育方法の充実、改善。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解。

園の先生方が行っている環境構成や子どもへの関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及。

幼児期・架け橋期の教育の質保証のための枠組みを構築。



架け橋期の教育

架 け 橋 期

0～18歳までを見通した学びの連続性に留意して、義務教育の開始前後の2年間をいい、**生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期。**

子どもの遊びや生活を基本として、環境を通して行う教育

幼児教育



保育者は多様な役割を果たしながら、偶然の出来事をいかしつつ、豊かな体験（学び）を実現していく



子どもたちが経験し学んでいることを捉え、資質・能力の芽生えを捉える。さらに豊かな体験と体験をつなげていく。

遊びの中に**学び**がある。

小学校教育



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を念頭において、「主体的・対話的で深い学び」の実現



これからの学校教育は・・・

- *個別最適な学び
..その子の学びを支える。
- *協働的な学び

幼児教育で芽生えた**学びの芽**をさらに伸ばしていく。

目指す子ども像として共有



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
(10の姿)

学習を基本として、教科ごとの学び



幼児教育と小学校教育には様々な違いがあることを意識して**歩み寄り**、**幼児教育と小学校教育との円滑な接続**を図る必要がある。

架け橋期の教育の充実につながる 幼保小による話し合いの進め方

第3段階

検証する。

第2段階

架け橋期カリキュラム
の作成

→幼児教育と小学校教育の
違いに気付いていく。
共有する。



第1段階

エピソードを語ろう。
→5歳児と1年生担任の
子どもの共通点が見つかる。

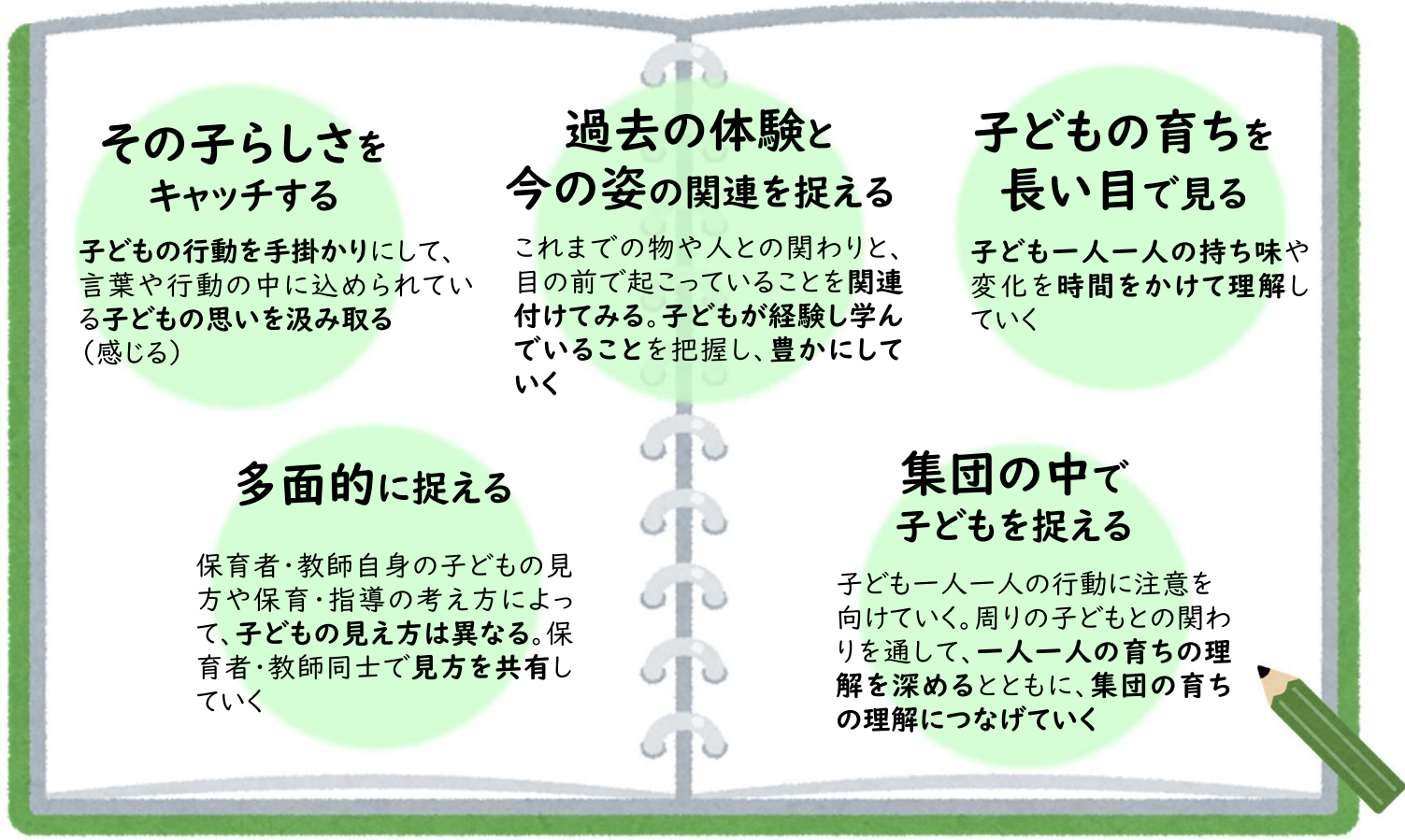
前段階

保育・授業の参観
10の姿の意味を理解

10の姿を意識しながら、
同じような活動から、
話し合うと分かりやすい。

*アドバイザー・・・幼保小の教育・保育についてのよき理解者としての役目。

子ども理解に基づいて発達を理解する力を磨こう



研修生の報告書より

架け橋期は、生涯にわたる学びや生活の
基盤をつくるための重要な時期とされる。
遊びや生活の中での体験を通して様々な
学びが学習の基盤となっていく。体験と体験
をつなげていき、心に残る遊びの経験につな
がるようにしていきたい。

5歳児担任

小学校の学習は、幼保の豊かな経験
の積み重ねの上に成り立っていることを
学んだ。3つの柱につながる資質・能力
が、芽生える生活や学習の基盤づくりが
幼保での体験を通してなされていること
を改めて感じた。

1年生担任

